

# 多様な教科・領域における活用型学力の育成

～電子黒板やタブレットPCなどを用いた活用型学習の実践事例の創造～

大阪府守口市立橋波小学校

〒570-0033  
大阪府守口市大宮通1丁目14番9号

[http://www.moriguchi-osk.ed.jp/hashiba\\_es/](http://www.moriguchi-osk.ed.jp/hashiba_es/)

## 1. はじめに

本校では、平成 21 年度から Panasonic 教育財団の助成を受けて、ICT 活用の授業研究を進めてきた。

平成 21 年度に「教員の授業力アップ↑のための ICT 活用プロジェクト」として、教員の ICT 活用と授業力向上を目指して授業改善に取り組んだ。平成 22 年度は、「多様な教科・領域における活用型学力の育成」として、主に児童の ICT 活用と教員の活用型学習の指導方法の工夫に取り組んできた。その成果として、体育の授業で児童にデジタルカメラの動画機能を活用して跳び箱の跳ぶ姿を撮影させ自己評価と他者評価をさせ学びを高める授業、ディベートの授業で児童がインターネットから調べた内容を論理的に組み立て、相手を説得できるようにまとめ、パワーポイントを使って討論会をさせるなど、活用型学力を高める実践を行ってきた。

平成 23 年度は、総務省「地域雇用創造 ICT 絆プロジェクト」の 1 校に採択され、4・5・6 年生の全員にタブレット PC が導入された。そこで電子黒板やタブレット PC などを用いた活用型学習の実践事例の創造として、様々な教科・領域において活用型学習を実践してきた。低学年での算数では、三角形や四角形などの形を日常生活から見つけ出し、さらにデジタルカメラで記録したものをグループで分類する授業が実践された。また、1 年生が新 1 年生（幼稚園児・保育園児）を迎えるために、学校の様子をデジタルカメラで撮影し、パワーポイントでまとめて発表する授業など実践された。高学年では、タブレット PC のコラボノートを活用して、理科の植物の成長の記録をまとめた授業が実践された。また、タブレット PC のジャーナルを活用して、ピカソのゲルニカの絵を鑑賞する授業などが実践された。

さらに、実践事例の創造として、各学期に 1 回の報告会を開催し、多くの実践が報告されてきた。このように、ICT を活用しながら活用型学習の実践が多くされるようになってきた。

## 2. 研究の目的

平成 23 年度から ICT 絆プロジェクトが始まり、4・5・6 年生の全員にタブレット PC が導入されることになった。これにより児童一人ひとりが ICT 機器を使い、思考力・判断力・表現力などの育成を目指した活用型学力を高めていけることと考える。さらに次年度、電子黒板ユニットの購入が可能になれば、タブレット PC が導入されていない学年でも 50 型モニターを電子黒板化することができる。また、アクセスポイントを増やし、ワークシートを PDF 化できれば、低学年でもタブレット PC を活用でき、教材のレパトリーが増え、一層、活用型学習を進めていけるものと考えられる。

そこで研究テーマを「多様な教科・領域における活用型学力の育成」とし、サブテーマに「電子黒板やタブレット PC などを用いた活用型学習の実践事例の創造」とし、次の3点を中心に研究を進めた。

- ①電子黒板やタブレット PC などを用いた活用型学習の実践事例の創造
- ②「活用型学習」の内容を示した場面集の作成
- ③研究実践の共有化と活性化を図るため実践報告会を開催する

多様な教科・領域で ICT 活用した活用型学習の事例は少ない。そのため先行事例として提案していく。また、その場面集を作成し、教員が苦手としている教科・領域でも ICT 活用を通して、活用型学習を指導することができるようにする。そのように教員自らが積極的に ICT を活用する術を知ることで、児童の ICT 活用を通して育てる活用型学習を継続的に発展的に推進することが可能となるのである。

### 3. 研究の方法

#### ①教科部会を機能させる

本校では、昨年に引き続き、教科部会を機能させる。多様な教科・領域において、児童が ICT を活用した活用型学習の指導方法の工夫を行うために、今年度も教科部会をしっかりと機能させることにした。全教員が教科部会に所属するため、必ず ICT を活用した授業を行うことにする。

また、今年度は、教員が過去に所属したことのない教科に所属することとした。これは、例年同じ教科での実践が多く見られたためである。新しい教科で授業の幅を広げつつ、授業力向上にもつながるものと考えている。

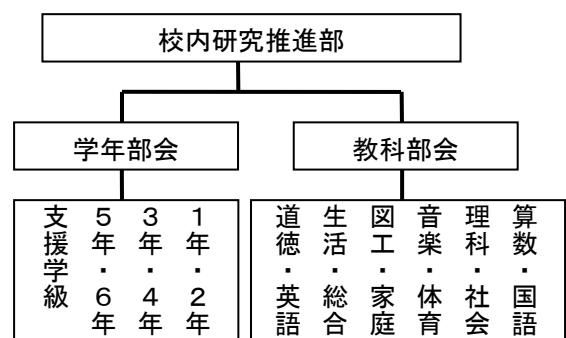


図 1 校内研究推進部の組織

#### ②協議会の持ち方

本校では、研究授業後の討議会をグループ討議で実施している。グループ討議をすることで、様々な世代や学年からの意見や考えを議論に反映できるようになった。そして、このグループ討議では、授業に関して、次の3つの観点で参観をおこなうことにした。「考える力」「表現する力」に即して、子どもの実態は、どうだったか？」「考える力や表現する力を育てるのに、ICT活用は、効果があるか？」「子どもが学び合う学習形態と子どもの実態は、どうだったか？」これらの観点に応じて「成果」と「課題」に分けて分析することにした。グループ討議では、授業の「課題」がどのようにしたら良くなるかを考えることにした。そして、改善プランとして再提案する内容を進めた。

また、本校では、タブレット PC が導入されているため、これらのワークシートをタブレット PC に読み込み、各グループをオンラインで結んでの討議を行った。



討議会を深め、自分の授業に生かそう！

氏名	氏名	氏名

●「考える力」「表現する力」の科別目標

学年	目標	目標	目標
1年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。
2年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。
3年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。
4年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。
5年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。
6年	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「表現する力」 ・自分の考えを言葉で表現する。	「考える力」 ・自分の考えを言葉で表現する。

③全教科・領域での実践報告会を学期毎に実施する。

各学期に、教科部会（9教科+道徳・総合・英語）から1本の実践と学年の実践を報告し合った。これによって、様々な場面での実践を共有することが可能になった。11月の実践報告会では、全員によるポスターセッションを実施した。他校からの参加者と様々な意見交流をする場となった。



④年間4回（8クラス）の研究授業を実施する

1年～6年・支援学級まで、それぞれの学年で研究授業を実施する。また、11月には、守口市内の小中学校に向けて5クラス同時に公開授業を行ったが、これは、外部からの評価を得た。

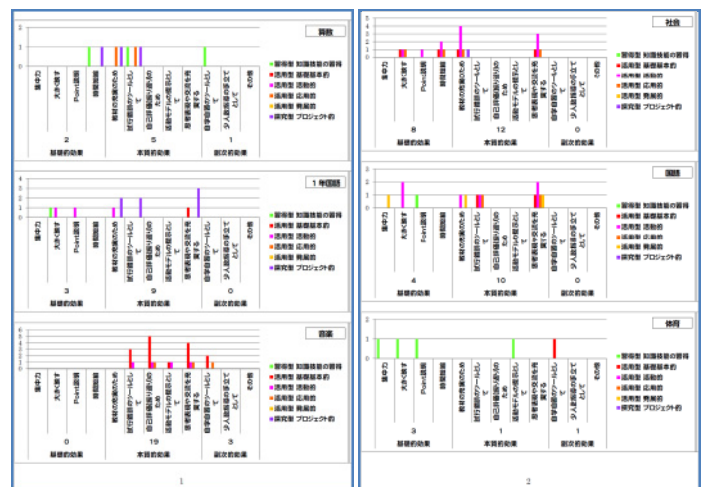
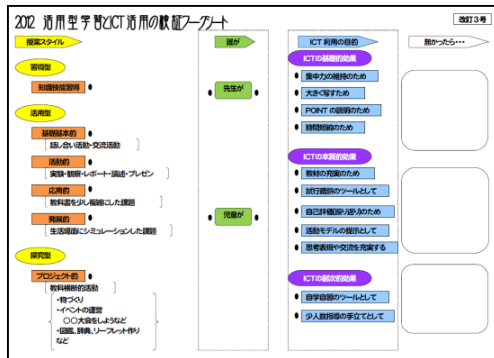
⑤事例集としてまとめる

これらの実践を、その単元の流れ、目標（ねらい）、授業の様子（写真）、ICT活用のポイントなどを載せた冊子にする。これらの冊子は、市内の小中学校へ配布した。



#### 4. 研究の内容

昨年度からの課題であった、実践授業において児童のICT活用と活用型学習の検証作業をおこなった。それぞれの実践授業で検証を行うに

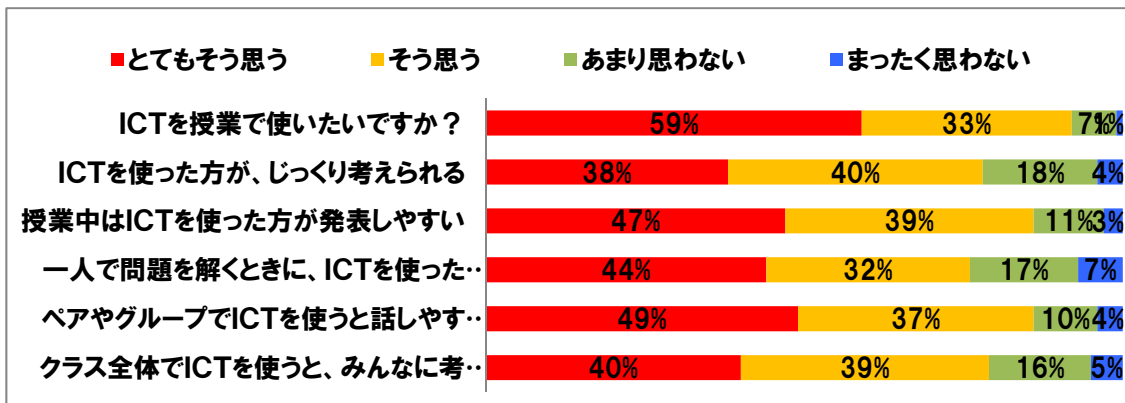


あたって、ワークシートを作成した。

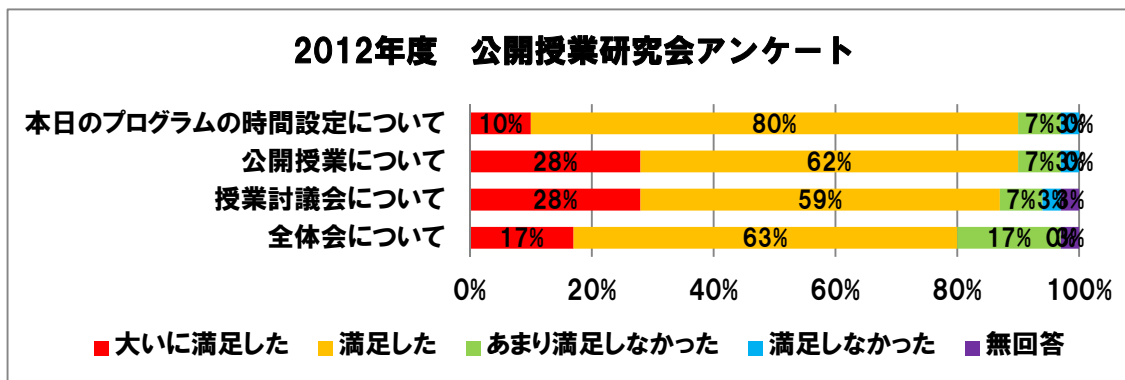
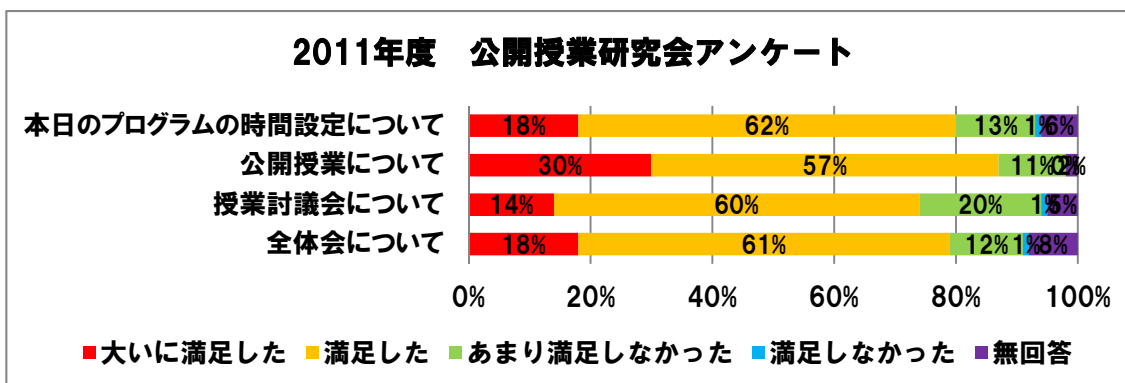
このワークシートを活用して、グループで話し合いを行い、実践授業に関して、活用型授業だったのか、ICT活用に効果があったのかを確認した。回収されたワークシートをデータ化して、再度全員で確認した。

また、ICT活用のアンケートを実施した。これで4回目の実施になる。

10月に比べると、ICTを使いたいという子どもが増えた。また、ICTを使った方が発表しやすいという子どもも増えた。ペアやグループでのICT活用も良いという子どもが増えた。10月よりも少しだけICT機器活用が良いという結果になった。概ね8割の児童にとっては、活用型授業を行うにあたって、ICT活用は良いという結果を得られた。



昨年に引き続いて、今年度も参加者アンケートを実施した。



アンケート結果から、参加していただいた方々には、昨年以上に概ね満足していただけた内容だったと思われる。授業討議会は、授業後各教室で ICT 活用から思考力・表現力、さらには教科論など活発な意見交換がされ議論が十分された。

## 5. 研究の経過

1 学期	4 月	全体会
	5 月	研修会（転任者用研修会）
	6 月	研究授業 5 年（算数） 支援学級研究授業
	7 月	実践報告会（校内）
	8 月	活用型学力の中間報告会①（全教科・領域+2 学年） （2 校合同研修会）

2 学期	10 月	研究授業 3 年（人権）
	11 月	研究授業 1 年（図工）・4 年（総合）・5 年（総合）・5 年（理科）・6 年（外国語） 活用型学力の中間報告会②（全教科・領域+2 学年） ポスターセッション
3 学期	1 月	研究授業 2 年（図工）
	2 月	活用型学力の最終報告会（全教科・領域+2 学年）
	3 月	成果と課題

## 6. 研究の成果と今後の課題

### 《実践事例の検証（2 学期・3 学期分）》

昨年度末に上がったのは、実践事例の検証が必要であるという点だった。そこで、今年度は、多くの実践事例について検証作業を行う事にした。またそれに応じて検証ワークシート（活用型学習と ICT の活用型検証ワークシート）を作成した。

2 学期の公開授業研（11 月 30 日）でポスターセッションとして発表したが、検証作業はできなかった。3 学期にまとめて検証作業を行った。しかし、上記にも述べたように、実践事例の数が多く 2 学期・3 学期分をまとめて行うには時間的に難しかった。2 学期の実践は、2 学期に中に行える日程的な調整が必要であると考ええる。

### 《低学年でのタブレット PC 活用》

本校では、タブレット PC が 4・5・6 年に導入された。（総務省絆プロジェクト）低学年には、タブレット PC が導入されていないが、それでも低学年でタブレット PC を借用し時折使うようにした。それによって低学年でもタブレット PC が使える環境も整えることも大切であり、また無線 LAN や転送システムなどもあるとよいと考える。

### 《児童のアンケート結果》

2 年間で計 4 回のアンケートを行った。各項目での多少の変化はあるものの、概ね 8 割の子どもが、肯定的な意見を持っていた。表現力を高めるのに、ICT 活用は有効であると同時に、思考力を高めるにも ICT 活用は有効であると考えられる。

ただ、そのための授業プランをしっかりと考えなければならないということも大切である。研究部を中心に事前研をしっかりと行ってきた成果もあると考える。

### 《授業視察》

今年度は、外部からの授業視察が多くあり、その都度、様々なクラスでの公開をお願いした。どこのクラスでも快く受け入れてもらった。これらの背景には、やはり教員の授業力が著しく向上し、どの教員も自信を持って授業に臨めるようになってきた成果であると考ええる。

これらの成果を継続するために、次年度の入れ替えで新しく来られる教員には、研修が必要である。

## 《研究組織》

研究授業前の事前研などは、かなり組織立って計画的に行うことができた。授業についてみんなで考える場として、とても良い機会になっている。次年度も組織的に計画的に実施していきたいと考えている。

## 7. おわりに

この4年間の教員のICT活用状況調査でふり返ってみる。

異動を含めて考えても、本校の教員は、ICT活用と活用型学習に意欲的に取り組んできたことがうかがえる。

今後も、この成果を継承しながら、さらに発展的に授業実践に取り組んでいきたい。

